



2022年度

(令和4年度)

事業報告書

第1 法人の概要

- 1 学院の母胎
- 2 学院のモットー、教育理念
- 3 学院の沿革と概要

第2 事業の概要

- 1 2022年度 事業方針
- 2 2022年度 法人 事業報告
- 3 2022年度 中学校高等学校 事業報告
- 4 2022年度 小学校 事業報告
- 5 2022年度 こども園幼稚園 事業報告

第3 財務の概要

- 1 財務の経年比較

学校法人 聖母被昇天学院

第1 法人の概要

法人の名称	学校法人 聖母被昇天学院
法人の住所	大阪府箕面市如意谷 1-13-23
電話番号	072-721-7680
設立	1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1 学院の母胎

学校法人聖母被昇天学院は、1839年フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されたカトリック聖母被昇天修道会を母胎としている。聖マリ・ウージェニーは、1817年8月25日フランスのメッツで生まれ、2017年8月に生誕200周年を迎えた。聖マリ・ウージェニーは教育理念「自立した女性を育てる」の具現化のため、世界各国に教育機関として聖母被昇天学院を創立した。日本では、1952年にフィリピンとヨーロッパから5人のシスターたちが来日して修道院を創ると共に、教育事業の開設を準備し、1954年に学校法人として認可されて以来、聖マリ・ウージェニーの教育理念の原点に立って、こども園・小学校・中学校高等学校の保育並びに教育活動を展開している。

2 学院のモットー、教育理念

(1) 学院のモットー

「誠実・隣人愛・喜び」 『世界の平和に貢献する人の育成』

(2) 教育理念

LIFE—生き活きとエネルギーに生きる人

TRUTH—いかなる時でも真実を見極め、誠実に行動する人

FREEDOM—周りにながされず自分で判断し、自分らしく生きる人

GOODNESS—一人ひとりの善さを大切に、ポジティブに思考・発言・行動する人

ONENESS—誠実・隣人愛・喜びの精神大切に、多様性を認め、ともに協働する人

3 学院の沿革と概要

(1) 法人設立認可年月日

1954年（昭和29年）2月6日学校法人被昇天学園設立認可

1987年（昭和62年）4月1日学校法人被昇天学園から学校法人聖母被昇天学院に名称変更

(2) 学校園設置認可年月日

1954年（昭和29年）2月9日幼稚園設置認可

1954年（昭和29年）2月9日小学校設置認可

1959年（昭和34年）11月6日中学校設置認可

1962年（昭和37年）9月29日高等学校設置認可

1967年（昭和42年）1月23日短期大学設置認可

2005年（平成17年）7月29日短期大学閉学認可

2015年（平成27年）3月31日幼稚園廃止認可

2015年（平成27年）4月1日認定こども園設置認可

(3) 設置する学校園の概要

幼稚園 1953 年（昭和 28 年）4 月 1 日開園、2015 年（平成 27 年）3 月 31 日閉園
小学校 1954 年（昭和 29 年）4 月 1 日開校
中学校 1960 年（昭和 35 年）4 月 1 日開校
高等学校 1963 年（昭和 38 年）4 月 1 日開校（全日制普通科）
認定こども園聖母被昇天学院幼稚園 2015 年（平成 27 年）4 月 1 日開園

2015 年（平成 27 年）4 月 1 日認定こども園聖母被昇天学院幼稚園開園
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際小学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際中学校に名称変更
2017 年（平成 29 年）4 月 1 日アサンプション国際高等学校に名称変更
2018 年（平成 30 年）4 月 1 日こども園アサンプション国際幼稚園に名称変更

(4) 学校園の生徒等数の状況

2022 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分	収容定員数 (A)	現員数 (B)	収容率 (B/A)
こども園アサンプション国際幼稚園	324	238	73.5%
アサンプション国際小学校	480	399	83.1%
アサンプション国際中学校	240	132	55.0%
アサンプション国際高等学校	360	314	87.2%
合計	1284	1066	

認定こども園聖母被昇天学院幼稚園は 2018 年 4 月 1 日に、こども園アサンプション国際幼稚園に園名を変更

(5) 役員、評議員の概要

2022 年 5 月 1 日現在（単位：人）

職 務	定員数	現員数
理事	5	5
監事	2	2
評議員	11	11

(6) 教職員の概要

2022 年 5 月 1 日現在（単位：人）

区 分		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	合計
教 員	本 務	18	39	19	21	97
	兼 務	21	10	11	10	52
職 員	本 務	1	4	4	3	12
	兼 務	1	5	2	2	10

第2 事業の概要

1 2022年度 事業方針

アサンプション国際 2022年度 事業計画と概要

(事業目標)

(1) 経営再建として5カ年をめどに単年度収支の均衡を図るため、下記の募集人数を確保する。

小学校	80名	(募集定員80名)	⇒	事業実績	2022年4月新入生	68名
中学校	50名	(同 80名)	⇒	事業実績	2022年4月新入生	48名
高等学校	130名	(同 120名)	⇒	事業実績	2022年4月新入生	124名

(2) 小中高は、「21世紀型教育」3本の柱の中 本学院の特性を生かし特に英語教育に力を入れ、広報の柱として募集を図る。

(3) 学院スクールモットー「誠実 隣人愛 喜び」を生きる生活基盤となるよう、教育課程の様々なところにカトリック理念を入れ込むアサンプション教育の徹底を図る。

(事業展開)

(1) 学院が統一した教育精神を伝え、幼稚園と小学校、小学校と中学校の連携を強化する。

(2) 学院で学ぶ生徒が、自分の可能性を見出し、生きる力を身に付ける。また、カトリック校としての伝統である「心豊かな教育」と共に、予測不可能な時代に立ち向かい、生きる力を身に付けるためにPBL「課題解決型学習」を日常の学びに充実・発展させる。

(3) 学院の「教育の3本柱」は、PBL (Project Based Learning 課題解決型教育)・英語教育・ICT教育である。所属ごとに年齢に合った教育活動の土台とする。

(4) ICT教育においては、小学校2年生からiPadを一人一台所持する。

(5) 学院の教育理念である「ONENESS」を、学院全体に浸透させ学院として学びの共同体となる。

(事業実績) 2022年度在校生の内訳

	男子		女子		計
	人数	割合	人数	割合	
小学校	147	36.8%	252	63.2%	399
中学校	67	50.8%	65	49.2%	132
高等学校	148	47.1%	166	52.9%	314
計	362	42.8%	483	57.2%	845

2 2022年度 法人 事業報告

1. 入学生激減から脱却し、増加に転換

本学院は、創立者のカトリックの精神に添い、教養ある人材の育成を掲げ、1954年(昭和29年)2月に学校法人被昇天学園として設立認可を受け、幼稚園及び小学校を開校し、以後順次、中学校、高等学校、短期大学を開校し、以後、1987年(昭和62年)4月に法人名を聖母被昇天学院に変更し、2005年(平成17年)7月に短期大学を閉学したが、本学院の母胎である聖母被昇天修道会の教育理念に従って学校教育及び保育を展開してきた。しかし、近年は少子化の影響を多分に受け、2015年4月には小学校入学生が15名と激減した。この現状を鑑み、2017年より21世紀型教育並びに本学院の特性である英語教育を強化し現在に至っている。

近年の5月1日在籍生徒数と収容定員充足率

年度	収容定員	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
幼稚園	324	310	314	308	309	296	285	275	259	244	238
小学校	480 (360)	247	222	189	179	208	244	267	303	372	399
中学校	240	174	149	133	133	117	127	141	160	137	132
高校	360 (240)	186	174	172	164	184	233	311	317	313	314
総合計	1404	917	859	802	785	805	889	994	1039	1066	1083
小中高計	1080 (960) (840)	607	545	494	476	509	604	719	780	822	845
小中高収容定員充足率		72.3%	64.9%	58.8%	56.7%	60.6%	71.9%	74.9%	81.3%	85.6%	78.2%

※2017年から小中高が男女共学

※高校の収容定員は2018年まで240名、2019年から360名

※小学校の収容定員は2021年まで360名、2022年から480名

2. 施設設備工事等

2022年度の施設の老朽化等に伴う改修工事は次のとおりである。

- ・北館屋上防水工事
- ・幼稚園屋上防水工事
- ・小学校給水ポンプ更新工事
- ・小学校大時計更新工事
- ・北館放送設備引き直し工事
- ・正門電動スライド門修理工事
- ・聖堂正面玄関扉修理工事
- ・グラウンド防球ネット増設工事
- ・小学校5C教室転落防止柵取付工事

3 2022年度 アサンプション国際中学校高等学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【最重要課題】

1. 入学者の確保 中学校50名以上、高等学校130名以上の入学者確保。
2. アサンプション21世紀型教育をさらに定着し充実するため、学校全体・教員個人の教育力の向上を目指す。
3. 学校改革に見合った施設設備の充実。

【最重要課題に対する施策と評価】

1. 入学者の確保について

(1) 中学入試結果

(概況) 中学入学者は56名(達成率112%)、昨年比+8名と向上したが、併設小から29名の入学者があったことが大きい。併設小以外の入学者も増やす必要がある。

	志願					合計	受験 合計	入学		合計
	帰国 生	A 午前	A 午後	B 日程	C 日程			併 以 外	併 設 小	
2023年度入試	1	28	15	14		58	56	27	29	56
2022年度入試	0	36	3	14	1	54	52	40	8	48
2021年度入試	1	26	10	9		46	44	30	6	36

- 1) 併設小からの進学者が29名(21名増) ←共学・イングリッシュコース1期生の学年
- 2) 学校内外の説明会参加者は483名(44名増) ⇔2022年439名、2021年258名
- 3) 受験者は58名と4名(7%)増だが、入学者は27名と13名(32%)減となった

→説明会参加者・受験者も増加したが複数受験が多く入学者増加に結びつかなかった

【分析】コロナ禍が明け受験も安全型受験からチャレンジ受験が増え併願受験が増加した

- 4) 参考資料：近隣私学の状況(A日程午前入試=第1希望受験者/定員)

関大160/60 関一516/240 関北陽144/105 近大286/195 千国106/40

関倉93/140 追手門69/80 梅花94/60 信愛33/60 香里58/70

→【分析】付属校・進学校以外は入りやすくなりチャレンジ校も受かる現況→戻りの減少

(2) 高校入試結果

(概況) 高校受験者は208名(45%増)、入学者は154名(達成率118%)と向上した。

	帰国		1次		1.5次		合計		入学者			併願戻り率
	専願	併願	専願	併願	専願	併願	専願	併願	併以外	併設中	合計	
2023年度入試	2	4	78	124			80	128	114	40	154	34/128(27%)
2022年度入試	4		67	64	4	4	75	68	87	37	124	13/68(19%)
2021年度入試	2		46	39	0	3	48	42	65	42	107	17/42(40%)
2020年度入試	8		43	59	0	0	51	59	63	28	91	12/59(20%)

- 1) 併設中からの進学者が40名(3名・8%増)
- 2) 学校内外の説明会参加者は1010名(244名・32%増) ⇔2022年766名 2021年647名
- 3) 高校入試出願者は専願80名(5名・7%増)、併願128名(60名・88%増)
→【分析】近隣私学の一部コースで併願募集停止の特需もありで併願者は大幅に増加した
- 4) 出身中学は箕面・池田・豊中・吹田北部・茨木西部と近隣地域で増加している。

→【分析】部活動との交流、継続した中学校訪問などの効果が表れてきた

(3) 入試広報活動の効果

- ・学校説明会において、司会、プレゼン、校舎案内などに在校生を前面に出し、学校の雰囲気を感じてもらえるように内容を工夫し、参加者アンケートでも好評であった。
- ・広報課による塾への訪問活動を継続し、学校の教育内容の認知・知名度向上に努めたことも効果があった。
- ・校内外向けへの情報発信としてブログやSNS（Facebook、Instagram）を使い、日々の様子を写真入りで紹介していることも効果があった。

2. 教育力の向上・教育環境の充実

(1) 教員研修の充実

- ・全教員対象の校内研修として、7月に小中高で「授業」をテーマに合同教員研修会を、8月に「教員としての成長」をテーマにミニ研修を行い、「授業力」を始めとする力量向上を目指した。
- ・教員個人で校外の研修会に参加することを奨励し、教科指導・進路情報など個別に必要な力量向上を推奨した。
- ・英語イマージョン教育関係の教員を対象に、3月にインターナショナルスクールの見学・訪問を実施し英語教育の充実を目指した。

(2) 学習メンターと連携した教育環境の整備

- ・「トモノカイ」と連携し、放課後の自習室・中学チャレンジタイムに現役大学生の「学習メンター」を派遣する取組みを進路指導部を中心に開始した。
- ・放課後の自習室について、開室時間を広げかつ学習メンターを配置することで、生徒が気軽に進路や勉強について質問できる環境を整備し、意欲ある生徒を応援する取組みを始めた。
- ・中学校チャレンジタイムを導入し、授業を受けるだけでなく自分で課題に取り組む時間を設けることで、自学自習習慣の確立を目指した
- ・各学年のLHRにおいて、学習メンターと連携し、進路や入試・勉強の仕方などを教員とは違う立場で生徒に説明する機会を増やし、目的意識を持たせるように取り組んだ。

(3) グローバル教育の充実

- ・コロナ禍で停止していた海外研修・ターム留学・コリブリ（日仏交流）を、2022年1月から再開し、生徒が実際に海外を訪問して学ぶ機会の提供を行った。
- ・海外大学・留学ガイダンスなど生徒や保護者向けに情報を発信するガイダンスを充実させた。

(4) 進路実績の向上に向けて

- ・多様化複雑化する大学入試に対応し、総合型選抜、指定校推薦、公募推薦、共通テストなど受験種別ごとのガイダンスをこまめに実施し生徒への情報提供を充実させた。
- ・大学出張授業、学部学科ガイダンスなど大学での学びについて、大学関係者に直接話を聞く機会を設け、生徒に大学での学びのイメージを持たせるようにした。
- ・志望理由書の作成・面接練習をについて、多くの教員が専門性を生かして関わり指導し、総合型選抜入試などで実績を上げることができた。
- ・連携協定校である関西学院大学への進学を意識させ、今年度も10名以上の生徒が進学した。
- ・国公立大学への入学者は0名であったが、上智やICU、関関同立レベルの私立大学の実績を伸ばし多くの合格者を出すことができた。

3. 施設の整備

(1) ICT環境の整備

- ・ICT環境の改善のために事業者とともに適宜改善策を実施してきたが、根本的解決をはかるためフィルタリング環境をクラウド環境に構築し、校内NW・サーバの負荷を改善した。

- ・オンライン配信のための機器や端末機器の購入を行い、環境整備を行った。

(2) 施設・環境の整備

- ・生徒から要望の高い第二体育館更衣室の環境改善について検討し、2023年度前期に冷房設備を整備できるように、電源環境や断熱対策の整備も含め対応を進めている。
- ・生徒の増加・自転車通学者の増加から自転車置き場の整備を検討している。候補としては西門周辺の植栽の位置であるが、法人と相談しながら整備を進めていく。
- ・北館教室の壁や床の傷みが激しい教室について、2022年度末から中高事務室と学院と相談し、段階的に改修を進めていく。
- ・西館2階教室について、2023年度はクラス増対応として小学校より移管し、普通教室として整備する。

4 2022年度 アサンプション国際小学校 事業報告

【ミッション】

学院のモットー「誠実 隣人愛 喜び」に基づき、『世界の平和に貢献する人の育成』を目指す。
～全学年が新体制になるため、「アサンプション21世紀型教育」の充実と定着

【重点課題】

- (1) 授業力向上…教職員の意識改革、組織力強化と授業力の向上の育成
- (2) 英語力強化…イマージョン教育の改良と組織化
- (3) 学院的課題…募集80名を目標とした広報戦略の強化
- (4) 宗教教育再生・強化…カトリック校に相応しい全校的体制刷新

【具体的な取り組みと評価】

(1) 授業力の向上

①研究研修体制

研究研修部が研究テーマを設定し、それに沿った教員研修を進めた。研究授業では、全員参観を原則とし、事後研修会においても一人ひとりが発言しやすい手法を用いた研修を行った。若手・ベテラン共にたくさんの発言をすることにより、研究テーマについて深く学ぶことができた。

②PBL

全体的な理解が進み、より一層多くの実践を残すことができた。PBLが特別な授業で使われる手法ではなく、日常的に取り入れられる学び方として全教員が認識することができたのが一番の収穫だった。

③ICT活用

iPadの本格導入から3年が経ち、授業内でのICT活用場面は大幅に増えた。児童の運用能力も向上しているため、iPadを「使う」ことから「使って何を考えるか」の授業に重点を置く段階に入ってきた。子どもたちにとっても他の文房具と同様に、必要な時に選んで使える道具として認識されるようになった。

(2) 英語力（イマージョン）強化

①モジュールタイムの導入

…定期的に朝の時間を確保することで、取り組みを定着させることはできた。今後、内容の見直しも随時行い、新教材（電子書籍）の有効利用など高いレベルでの英語力定着を図る。

②イマージョン授業レベルアップと全学年への拡大。

…定期的に会議の場を持つことができ、PBLの授業を主体とするという意識統一ができた。また、指導に際しての注意点なども確認できた

…イマージョン授業の研究授業も、今年度は実施できた。アカデミックコースの教員も含めて、より良い授業に向けた研修を行うことができた。

③中高のイマージョン部との連携

…具体的な指導・カリキュラムなど、12年一貫プログラムを構築できた。今後、中高との教員研修の場を持ち更なる理解を深めていく。

(3) 学院的課題＝募集大増強 (80名) ※入学者 67名

①幼稚園⇒園長推薦制のさらなる確立と説明会実施

…2023年度入試内部園長推薦は16名となった。

…5月・3月に併設幼稚園への説明会を行った。参加者は安定して確保でき、推薦制度とコース決定方法の周知も浸透できている。

②小学校⇒校長推薦制度改革と中学授業への体験の実施

…3～6年生保護者に対しての中学校説明会、5・6年児童に対しての出張授業を実施した。

(4) 宗教教育再生・強化

①「宗教の時間」への教員の参画機会増強

…礼拝担当を通じて、Sr.の助言のもと、聖書や創立者の言葉について考える機会を設けた。

…学級担任は、週1時間の「宗教」授業に参加した。

②教員に対する宗教教育実施

…4月に教員研修を実施。

5 2022年度 こども園アサンプション国際幼稚園 事業報告

【理念】

- ・キリスト教の精神に基づき「誠実・隣人愛・喜び」をモットーとする。
- ・愛されて愛する心を知り、一人ひとりが、かけがいのない大切な存在であることを知る。

【在籍日数及び入園者報告】

- ・2歳児クラス 11名
- ・3歳児クラス 75名
- ・4歳児クラス 85名
- ・5歳児クラス 75名

計235名 (2022年度3月末実績)

【重点課題】

1. 教育充実の取り組み
2. 地域との連携
3. 園児募集に関わる事業
4. 各所属との交流 (園児・児童・生徒・教員)

【具体的な取り組みと評価】

1. 教育充実の取り組み

(1) 聖堂にて、シスターから聖書のお話を聞く

キリスト教保育を実践する中で、各学年で月1回、聖堂でシスターから神さまのお話を聞く機会を持った。神さまに守られながら、喜びと感謝の気持ちを持って過ごした。

(2) 本園教員、ネイティブによる英語教育カリキュラムの構築

学年に応じた指導と教育時間の計画を立てて実施した。

(年中、年長組…毎週2回 年少組…2学期より週1回実施)

子どもたちは皆、楽しく参加することができた。2月の生活発表会では年長クラスで英語劇を行った。

(3) 異年齢保育

横割り保育では、同じ年齢の友だちの中で人間関係の構築に必要な関わりを経験した。また異年齢保育（縦割り保育）では、自由遊びの中での年少さんへのお世話を通して相手に対する思いやりや労わる気持ち、成長への憧れや期待をもって過ごすことができた。

(4) コヤマスポーツスクールによる体操指導の実施

幼児体操専門の指導員を招き、子どもたちの運動能力を伸ばすための体操を実施した。

(5) 園内研修として出原大先生を講師に迎え、4月と3月の2回学びの時を持った。「幼児の主体性を育む保育」「今、保育に求められていること」について学びの時を持った。

2. 地域との連携

- (1) 地域子育て支援「みんなで あそぼう」を年間17回実施。（園庭開放、行事参加等）
コロナ禍であるため行事については不参加としたが、園庭開放には平均8人が参加。中には来年度の入園を意識して遊びに来られている親御さんもおられた。
- (2) 子育て支援事業として、子育て相談員（主幹教諭）を配置した。

3. 園児募集に関わる事業

- (1) プレスクールの実施（2歳児…ひとクラス12名、4クラス…年間18回）。
48名中33人が入園に繋がった。
- (2) ブログを毎日更新し、子どもたちの様子と園内の新しい情報を提供。
- (3) 入園説明会を9月に実施。
3回に分けて実施した。参加者は計95名。新年度の新入園児数は3歳児クラス71名であった。

4. 各所属との交流（園児・児童・生徒・教員）

小学校の生徒と下記の日時で交流を持つことができた。

- ・11月 1日 ハロウィンパーティーに参加
- ・11月 7日 小学3年生による絵本の読み聞かせ
- ・12月21日 いっしょにあそぼう

第3 財務の概要

1 財務の経年比較

入学者数 (単位: 人)

5/1現在

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
高等学校	118	126	92	106	124
中学校	58	56	52	36	48
小学校	67	66	65	84	68
こども園	83	86	85	84	82
合計	326	334	294	310	322

在籍者数 (単位: 人)

5/1現在

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
高等学校	233	311	317	313	314
中学校	127	141	160	137	132
小学校	244	267	303	372	399
こども園	285	275	259	244	238
合計	889	994	1039	1066	1083

教職員数 (単位: 人)

5/1現在

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
高等学校	教職員	22	21	22	21	21
	職員	1	1	1	2	1
中学校	教職員	22	21	23	21	19
	職員	2	1	1	0	1
小学校	教職員	23	25	29	33	39
	職員	2	1	1	1	1
こども園	教職員	17	16	18	19	18
	職員	2	2	2	2	1
法人職員	7	8	7	8	8	
合計	教職員	84	83	92	94	97
	職員	14	13	12	13	12

資金収支計算書 (単位: 百万円)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
収入の部	学生生徒等納付金収入	488	521	576	645	630
	手数料収入	7	6	5	6	7
	寄付金収入	72	7	10	8	2
	補助金収入	338	426	453	459	483
	資産運用収入	0	0	0	0	0
	資産売却収入	0	0	0	0	0
	事業収入	18	16	14	15	56
	付随事業・収益事業収入	0	0	0	0	0
	受取利息・配当金収入	0	0	0	0	0
	雑収入	14	11	11	31	12
	借入金等収入	470	83	620	240	380
	前受金収入	69	50	54	65	78
	その他の収入	560	675	523	680	734
	資金収入調整勘定	△84	△122	△85	△99	△94
収入の部小計(A)	1,951	1,671	2,181	2,050	2,288	
前年度繰越支払資金	78	202	118	87	27	
収入の部合計	2,030	1,873	2,298	2,137	2,315	
支出の部	人件費支出	676	729	735	818	812
	教育研究経費支出	141	169	185	223	214
	管理経費支出	130	134	92	96	126
	借入金等利息支出	19	9	6	1	1
	借入金等返済支出	198	53	676	350	316
	施設関係支出	106	52	2	10	23
	設備関係支出	13	14	2	6	11
	資産運用支出	137	138	124	122	144
	その他の支出	455	491	417	539	611
	資金支出調整勘定	△47	△34	△21	△54	△24
	支出の部小計(B)	1,828	1,755	2,217	2,111	2,234
次年度繰越支払資金	202	118	82	27	81	
支出の部合計	2,030	1,873	2,298	2,138	2,315	
(A-B) 年度収支差額	123	△84	△36	△61	54	

事業活動収支計算書（単位：百万円）

項目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	488	521	576	644	630
		手数料	14	6	5	6	7
		寄付金	0	7	10	8	2
		補助金	301	426	453	459	483
		経常費等補助金	0	0	0	0	0
		資産運用収入	0	0	0	0	0
		事業収入	50	16	14	15	56
		付随事業収入	0	0	0	0	0
		雑収入	2	8	2	31	12
	教育活動収入計	855	983	1,060	1,163	1,190	
	事業活動支出の部	人件費	629	729	710	815	819
		教育研究経費	323	169	282	316	291
		内減価償却額	91	93	97	93	77
		管理経費	140	134	92	97	127
		内減価償却額	1	2	2	1	1
		徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出計	1,185	1,126	1,084	1,228	1,237	
	教育活動収支差額	△329	△143	△24	△64	△46	
教育活動外収支	事業の活動収入	受取利息・配当金	0	0	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0	0	0
	事業の活動支出	借入金等利息	5	9	6	0	1
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	5	9	6	0	1
教育活動外収支差額	△5	△9	△6	0	△1		
経常収入	855	983	1,060	1,163	1,190		
経常支出	1,190	1,135	1,089	1,228	1,237		
経常収支差額	△335	△152	△30	△65	△47		
特別収支	事業の活動収入	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	0	0	0	0	3
		特別収入計	0	0	0	0	3
	事業の活動支出	資産処分差額	0	7	0	1	1
		その他の特別支出	0	0	0	1	1
		特別支出計	0	7	0	2	2
特別収支差額	0	△7	0	△2	1		
基本金組入前当年度収支差額	△335	△159	△30	△67	△46		

（参考）

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
基本金組入前当年度収支差額（減価償却控除前）	△243	△65	69	27	33
事業活動収入計	855	983	1,060	1,163	1,190
事業活動支出計	1,190	1,143	1,090	1,230	1,238
人件費比率（寄付金控除後）	73.6%	74.7%	67.7%	70.5%	68.9%
中高収支	△60	△54	△50	△76	△39
小学校収支	△6	20	35	52	28
こども園収支	8	15	△3	△34	△22